

13期 北摂の歴史ロマンを愉しむ（11月④,12月）

日時：11月28日（金）
10:30～12:00

場所：高槻しろあと歴史館

内容：常設展

特別展「戦国動乱の畿内」
見学

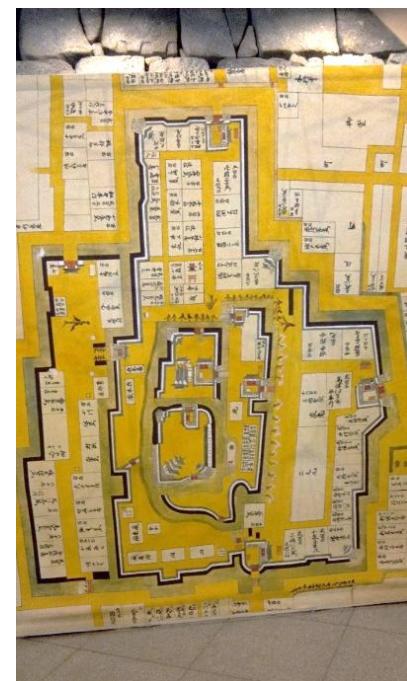


この歴史館は高槻城三の丸跡に建っている。会場内では資料や模型などで江戸時代の高槻の様子を紹介している。

また隣接の特別展示室では特別企画展（戦国動乱の畿内）の資料、発掘品、古文書などが展示されている

「高槻城と人」のコーナーでは江戸時代の高槻城の絵図や復元模型が展示されボランティアガイドの解説があった。

芥川城と三好一族のコーナーでは史跡芥川城跡と三好長慶の城主に関する資料や現地出土遺物などが展示されている。



日時：11月28日（金）13:00～15:00

教室：高槻センター街ビル

講師：中西 裕樹氏（京都先端科学大学 特任准教授）

内容：高山右近とキリスト教



- 要旨：
1. 戦国時代に我が国にキリスト教が伝来、一部の大名の保護の下で広がり、織田信長時代には長崎、豊後、北摂、河内、京都などの地域に布教の拠点を持つまでになった。
 2. 北摂では高槻城主高山右近が父飛騨守と共に布教に努め、忍頂寺五ヶ庄では仏僧に改宗を求める寺院の一部を破壊、島下郡安威では右近の臣安威了佐が布教に努めた。
 3. 豊臣秀吉はキリストン勢力の強大化を警戒し1587年の伴天連追放令を布告。徳川幕府は1613年に全国的な禁教令を出しキリスト教を全面的に禁止した。
 4. キリストン集団は堰を切ったように衰退したが、茨木市の下音羽・千堤寺などでは表面上は仏教徒を装いながらキリスト教に帰依する隠れキリストンが誕生。
 5. 1920年には隠れキリストンの存在と関係遺物が多く発見された。

—「今日のひと言」—

- ・茨木の片田舎 忍頂寺がキリストンの歴史と高山氏、中川氏の動きの中心となっていたことに驚きました。
- ・信仰は信者にとっては命であったと思う。体制がどのように変わろうが、信仰は個人の問題なので残ったと思う。
- ・その時代、外来宗教が伝来以来、これほど急速に権力者から民衆レベルに至るまで、普及したのはなぜだろうか？ その時代の社会情勢がマッチしたのか？ 宣教師が巧みなノウハウを持っていたのか？ 興味がわきました
- ・楽しく聞かせていただきました。かくれキリストンって、よく分からなかったが、細かくお話をいただきよく分かりました。『山のキリストン』おもしろかったです。

日時：12月5日 12:15～16:00

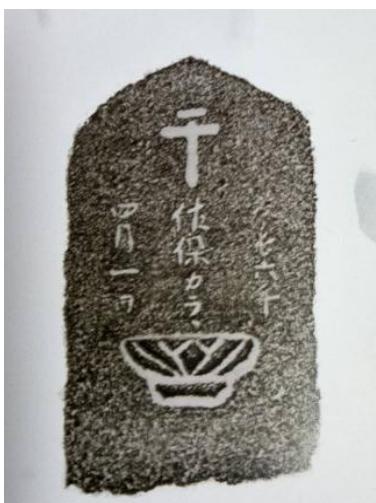
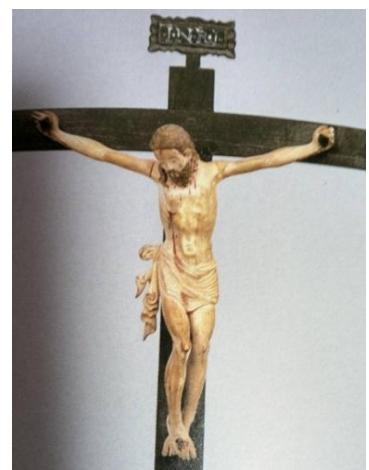
場所：キリスト教遺物資料館と寺山（上野マリア墓碑）

行程：モノレール彩都西駅一千堤寺—キリスト教遺物資料館—高山右近像—
寺山（上野マリヤ墓碑）一千提寺—阪急茨木市駅

遺物等：1920年千堤寺下音羽の寺山にて十字架が刻まれたキリスト教墓碑が発見され、以降村の旧家より次々と貴重な遺物が発見された。

東家より聖フランシスコ・ザビエル像、マリア十五玄義図、キリスト磔刑像、マリア彫像、真鍮製の各種メダイ、天使讃仰図のうち洗礼など多数の遺物。

大神家では厨子入象牙彫キリスト磔刑像、天使讃仰図、木製の十字架、念珠（ロザリオ）





高山右近像



上野マリア墓碑

—「今日のひと言」—

- ・当時の千提寺の付近は山深く、食料事情も厳しい。生活自体が大変なのに良く当時の資料がのこされており、歴史の解明に寄与して、感謝に耐えない。
- ・茨木市の山間部にこのような文化遺産が眠っていたとは、知りませんでした。個人では、とても訪れられないような所を案内いただき、貴重な経験でした。
- ・墓碑銘（上野マリア）の上野が地名だったとは、思っていませんでした。名字帯刀の方だとばかり。
- ・山の中に遺跡が残っていて、皆さんのが隠れて信仰されていたのに心が痛みました。晩秋の中、いいハイキングもできました。

(3班広報)